



坂東会

100周年
を迎えました

No.137

令和4年5月1日号

題字：十代目坂東三津五郎

坂東会

八代目所蔵の

浮世絵鑑賞

「弥生の花浅草祭」

五渡亭国貞画（三代歌川豊国）



画像提供：国立劇場

桜の花の下、ダイナミックに踊る坂東三津五郎。悪玉は中村芝翫。「弥生の花浅草祭」、通称『三社祭』。天保三年（一八三二）三月、中村座初演の様子です。この「善」と反対側には「悪」の面を持つ人物・中村芝翫が描かれ、善玉悪玉の対で一揃の浮世絵となっています。善玉悪玉は、もともとは山東京伝の絵入本『心学早染草』（寛政二年・一七九〇）に登場し、人の心が善悪に揺れ、葛藤する様を擬人化したものです。

この前年の天保二年十二月、三代目三津五郎は五七才で他界、本図で坂東三津五郎とあるのは四代目で、本公演時に二代目坂東襄助から四代目を襲名しました。一方、悪玉を踊るのは二代目中村芝翫（のちの四代目中村歌右衛門）で、二人とも舞踊を得意としました。

『三社祭』初演以前にも悪玉の踊りを取り入れた舞踊があります。文化八年（一八一七）、三代目坂東三津五郎の変化舞踊「七枚続花の姿絵」のうち「浮かれ坊主」（願入坊主）がそれです。その様子を描いた浮世絵も、八代目旧蔵作品に含まれています。悪玉踊りは人気があったのか、文化十二年（一八一五）には、葛飾北斎が軽妙なタッチで悪玉踊りを描いた踊りの指南書「踊独稽古」が出版されています。

（根岸美佳・学芸員）

*八代目家元が国立劇場へ寄贈した浮世絵は約一七〇点以上にのぼり、その中から主に踊りに関するものを取り上げ鑑賞します。

一〇〇周年記念舞踊会へ向けて、より一層気を引き締めて

家元 坂東 巳之助



伝えなければなるまいという思いから、書き留めさせていただきます。

まず感染経路ですが、同日のほぼ同時刻から家族全員に症状が出始めた事もあり、本当にわかりません。

私自身は自宅と歌舞伎座とを往復する毎日を通じておりましたし、当然会食などは一切しておりませんでした。

その中で可能性があるのは家族や共演者の方々ですが、その誰もがしっかりとした感染対策をとっていたはずですからまさに寝耳に水といったところででした。

次に症状ですが、一般的に言われる発熱や喉の痛みなどは幸いにそこまで酷いものではありませんでした。しかし、常に頭にもやがかかったようなボーッとする感覚があり、陽性発覚から数日して嗅覚の異常が出現しました。

こうした症状は後遺症として回復してからも残る可能性があると聞いていましたか

ら、身体的な面よりも精神的な面でのつらさ、怖さが大きかったです。

もしこの頭のもやもやが残ってしまったら、新しい踊りや芝居を覚える事なんて出来るだろうか。もし嗅覚が戻らなかつたら、食事や大好きなウイスキーも二度と楽しめなくなる。季節の変わり目を匂いで感じることも出来なくなる。世界から彩りが消えたようになってしまうのではないか。そんな不安がずっと付きまとう日々でした。

冒頭で述べた通り今ではそうした症状も全くなくなり以前の通りに生活できておりますが、それは幸運に恵まれたに過ぎません。

「コロナはただの風邪」という人たちがいます。これだけ世界中に蔓延し未だ収まる気配もないのですから、近い将来にはそうなるのかもしれない。

しかし少なくとも今現在では、決してコロナはただの風邪などではないという事を身をもって痛感しました。

この会報のご挨拶でコロナに関するお話を書き続けて二年。とうとう自分が新型コロナウイルスに感染してしまいました。二月の事です。

幸いな事に現在は後遺症などもなく元気に過ごしておりますが、皆様に注意喚起をしてきた身として本当に面目ない思いしております。

しかしこれまでコロナについて様々に語ってきたからこそ、この稿では身を持って感じたことをしっかりと目を背けずにお

どなたにもうつす事なく後遺症もなく回復
出来たことを、不幸中の幸いと思うより外
ありません。

一昨年、コロナ禍の始まりの頃に私は皆
様に立ち止まる事で身を守るようにお願い
を致しました。

二年が経った今もまだ出口の見えぬ状況
ではありますが、いつまでも立ち止まっ
ている事は出来ません。

九月にはその二年前に延期した百周年記
念舞踊会も控えております。

これを皆で迎えられるように、そして少
しずつでも前へ進んで行くためにこそ、私
も気を引き締め直して参ります。

皆様におかれましてはどうかご油断な
らず、出来得る限
りの対策のもと
健やかに日々を
お過ごしくださ
いますようお願い
いたします。



総会での家元。「会員の皆さんとおいしい食事を食べ、福引に一喜一憂する総会を開催できる日が早く戻ってきてほしい」と語られました。



おめでとう

ごごいませす!!

家元が第四三回松尾芸
能賞新人賞を受賞されま
した。

「たゆまぬ精進と努力を

重ね地道な実力をつけてきた。新作歌舞伎の印象も強かったが、この数年は古典歌舞伎で著しい成果を見せている。役柄も多彩で難しい二枚目から荒事の骨法を踏まえた役まで鮮明な印象を残している。2021年は『寿曾我対面』曾我五郎時致で見事な口跡と格調ある演技でその抜群の資質が改めて注目された「松尾芸能振興財団ホームページより」



贈呈式の様子

贈呈式は三月三十日、都
内ホテルにて行われました。
心からお祝い申し上げます。
松尾芸能賞は一九八〇年
より実施され、長年にわた
り日本の文化・芸能の保存、
向上に寄与した芸能出演者
や演出・音楽・劇場芸能に高
い技能を持つ人々に贈られ
るものです。第三十回(平成
二十年度)の大賞は、十代目
が受賞されています。

家元 これからの 一〇〇年の流れをつくる舞踊会に

いよいよ今年九月の開催となった坂東会創立一〇〇周年記念舞踊会。番組編成や舞踊会に向けた思いなどを家元に語っていただきました。

——坂東会創立一〇〇周年記念舞踊会を迎えるにあたり、演目編成など、どのようにお考えになりましたでしょうか。

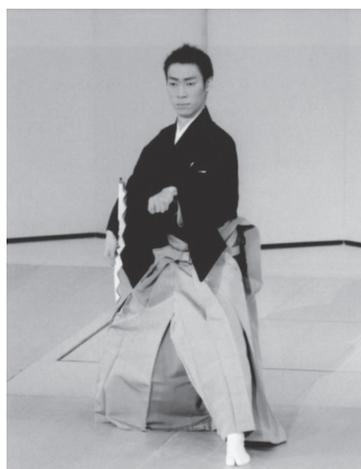
家元 一〇〇周年という区切りのよい節目に、例えば役者さんに出演していただき華を添えていただくなどひとつのやり方だと考えました。しかしこのような節目の時だからこそ、坂東会の歴史を見てもらいたい、長く坂東流に携わり支えてきてくださった方々に出演していただきたいという思いがあったので、先生方にもご相談しながら番組編成いたしました。

——家元ご出演の演目は、『花かつみ』『奴道成寺』を選ばれました。

家元 はい。『花かつみ』は、平成二二年歌舞伎座での追善舞踊会の序幕で踊らせていた

だいております。当時は二十歳そこそこ。それから十数年がたち、家元という立場になってもう一度踊ることに意味があると思います。初日の序幕に踊らせていただくことに決めました。

『奴道成寺』は、やりたい演目であると同時に、やらなくてはいけない演目だと考えました。坂東流が大切にしている演目の中で、一〇〇周年という舞台にふさわしい曲をあげれば『喜撰』や『靉猿』などもあると思いますが、年齢的な意味でまだちょっと早いかなど。お客様に観ていただく以上楽しんでいただきたいと考えた時、その可能性がもっとも高いのは『奴道成寺』だと思いました。所化も大勢出演しますので、若い男性の踊り手さんたちにも出ていただき、それが芸の経験



平成22年の追善舞踊会で踊られた『花かつみ』

として生きてくるとよいなと考えています。余談にはなりますが、これまで浅草歌舞伎でも、何度か『奴道成寺』を」という話をいただきました。しかし、初めてやるなら坂東会でやりたいと考えておりましたので、一〇〇周年記念舞踊会の開催が決まった時から、ほかではやらないと決めていました。

——企画作品の『五人三番叟』や『奴道成寺』の所化など、若手男性陣を起用しています。彼らへの思い、期待などをお聞かせください。

家元 前回の追善舞踊会の時も、父の『喜撰』で男性の踊り手さんを起用しました。私も所化で出ていたのですが、私自身にとっても大変よい経験でした。

所化や坊主など、大勢で踊るものは気楽に考えてしまいがちなところがありますが、大勢のものが決して簡単なわけではないし、そういうところでしっかりとやることに意味がある。そしてそれをちゃんと見てくれてる人がいます。また、主役の後ろに控えている所化だからこそ、そこからしか見えない景色があります。所化という役は、私自身もさまざまな役者さんの舞台上に立たせていただき、たくさんのお話を学んだので、今回出演の男性たちにも貴重な勉強の場となることを期待しています。

うちの流儀は女性の割合が高いので、時代を引っ張って行ってくれる女性の踊り手はたくさんいます。同様に、男性の踊り手さんにも育ってほしいという思いがあります。流儀の特色として、やはり男性の方が適しているもの、体力が必要な演目がたくさんあります。そこを男性に担ってほしい。そういう思いもありますので、今回の舞台が次代を担う男性陣たちにとって大きな経験となればと思います。

——最後に、一〇〇周年記念舞踊会に向けて出演者や会員にメッセージをいただけますでしょうか。

家元 皆さんのお力添えをいただいたおかげで、一〇〇周年にたどりつくことができま

した。そのことを思うと、本当に感謝しかないです。大きな節目を迎え、この一〇〇周年記念舞踊会でさらに勢いをつけて、これからの坂東流の流れができていけばよいなと思っています。一〇〇周年記念舞踊会を、「これから坂東流はすごい会になっていくぞ」と予感させるような会にしたい。みなさんもその思いで、この会を盛り立てていってください。ようお願いします。

(このインタビューは二〇二〇年二月に行ったものです。記念舞踊会の延期に伴い今号での掲載となりました)



若手男性陣による『五人三番叟』のお稽古の様子

二年間の自粛を乗り越えた精神力、根気強さが発揮されますように！

一〇〇周年記念舞踊会が二年の延期を経て開催の運びとなりました。

二〇二〇年、お稽古、開催準備と熱が入った矢先。世界的感染症の流行、延期を余儀なくされたわけですが、ただいまこうして開催に向けて準備ができますのも、その時のお家元の的確な判断と感じ入っております。

この二年間の自粛を乗り越えた精神力、根気強さが、一〇〇周年記念舞踊会に反映されますことと信じております。

何しろ一〇〇周年でございます！

先人達の一〇〇年にわたる「力」の蓄積が今日に至っていることを思い、責任の重大さを感じながら「初心不忘」の心で実行委員一同取り組んでまいります。

また、お家元の『奴道成寺』は役者さんの所化ではなく、名取の若手男性陣を起用して育てる舞台を作る。これからの一歩を歩み始めるお家元の力強い意気込みも感じられる思いでございます。(二裕起)

一〇〇周年記念舞踊会実行委員会
扇菊・利太郎・三裕起・友女香寿・若梢・蝶・京弘女

待ちに待った、

坂東会創立100周年記念舞踊会を開催します

九月十七日(土)【昼の部】

九月十七日(土)・十八日(日)

昼の部
夜の部

午前十一時開演
午後四時三十分開演

場所
国立劇場大劇場

長唄 花かつみ
長唄 秋の色種

家元

三知明貴
富三乃
喜美生

義太夫 女夫人形

男 女

加代壽
三千優

長唄 水仙丹前

喜代信
真起文
愛志乃
愛祐
愛寿美
愛吉

清元 保名

企画作品

弥余伎女

義太夫 五人三番叟

真祥三
扇弘
野里行
以乃輔
大夢

長唄 男女道成寺
常磐津

白拍子花子
狂言師左近
所化

三知
友女香寿

長唄 鶴亀

王 鶴 亀

三千梅
梅千穂
梅優貴

長唄 賤機帯

狂女
舟長

三津桜
桂子

香寿桃
香寿菜美
香寿真央
香寿美翔
香寿由
香寿李
香寿華
香寿梓之
香寿依稚

九月十七日(土)【夜の部】

清元 四君子
清元 幻椀久

椀久
松山

三津兵衛
久三之助
久三葉

大和楽 江戸風流

大夫
才藏

香代
勇弥
州寿

清元 峠の万才

大夫
才藏

永紫
蝶

長唄 女伊達

八都代

常磐津 山姥

優

清元 豊後道成寺

寿雀

長唄 難波土産

企画作品

秀子
三信之輔
三千踊
久三之助
州寿

はつ花

清元 喜撰

喜撰法師
お梶
所化

三津映
三太映(二代目)
映司
三寿舟
三寿珠
三寿智

映心
映小菊
映花
映心
映花
映太

九月十八日(日)【昼の部】

未定

傾城道成寺

藤娘

桜絵巻

長唄
長唄
長唄

家元

鈴木

加浦

和治

光有

勝良

志乃矢

勝梓

千扇

勝規

峰寿美

雅

三鏡扇

祐三扇

三貴扇

朋奈

花彦

沙羅

三奈慧

京弘女

仙章

藍乃

扇菊

扇朱

小菊

杵造
お白

喜撰法師
お梶
所化

清元
長唄

義太夫
狸々

義太夫
団子売り

奏風楽
旅情とところどころ

企画作品
田舎巫女

長唄
旅

九月十八日(日)【夜の部】

長唄 鶴亀

王 鶴 亀

義太夫 禿

長唄
企画作品
大江戸両国花火

寿子
幸奈
里子
寿々風

章太郎

智和

秀惠美

三千優

佳穂乃

真三祥

信兔音

一三三

以津緒

楓

幸緒里

以和

以緒莉

佳緒乃

以紗緒

若梢

三裕起

啓

愛

三代智

三千梅

長唄
常磐津
奴道成寺

所化

萩江
常磐津
八鳥
旅雀

鳥売り
神主
鳥刺し

常磐津
大坂万歳

太夫
才藏

清元
長唄
保名
伊勢参宮

野里行
以乃輔
祐真
大夢
優三郎

9/17

昼

舞踊会へ向けて

舞台に華を 咲かせよう!

9月へ向けてお稽古に励んでいる
出演者の方たち。どうか熱い声援
をお送りください。



●女夫人形
(加代壽 三千優)



●男女道成寺
(三知 友女香寿ほか)



●保名
(弥余伎女)



●五人三番叟
(真祥三 扇弘 野里行 以乃輔 大夢)



●賤機帯(三津桜 桂子)



●秋の色種
(三知明貴 富三乃 喜美生)



●鶴亀
(三千梅 梅千穂 梅優貴)

企画作品の紹介

義大夫『五人三番叟』

本名題は『寿式三番叟』と言
い、明治中期に文楽の人形浄瑠璃
の三番叟を歌舞伎舞踊に移し作
曲されたものです。初めに翁と
千歳が莊重に舞った後、三番叟が
初春の寿を祝い五穀豊穡を祈っ
て踊ります。

数年前よりこの曲目を二人で
はなく五人で踊れたらと考えて
おりましたところ、平成三十年第
五回チャリティー舞踊会で企
画作品の振付に推薦され良い機
会をいただきましたので振付に
至りました。振りとしては三番
叟の基本の動きは守りながら新
しい振りを考える様に努めまし
た。そして大きい間で踊る振り
ではなく細かい間に数多くの振り
を入れ、特に採みの段では袖を大
きく使う振りや人形の動きに似
せた振りも入れてあります。

今回は男性五人で踊りますの
で、軽快で躍動感溢あふれる三番
叟を期待しております。

(利太郎)

企画作品のご紹介

長唄 『難波土産』

日本舞踊協会の公演にあたり、坂東流に深く関わりがございました杉昌郎先生が作詞を、十代目のお家元の師匠である三津弥先生が振り付けを担当された作品です。

この作品を企画作品として担当してほしいと坂東会からお話があり、初演時に末席に加えさせていただいておりましたので、当時の三津弥先生の振り付け、構成のままに再現したいというのが一番強く思ったことでございます。三津弥先生は「素踊りの作品として、どう魅せるか」ということに苦心され、素晴らしい作品を残してくださいました。そのことを胸に出演者一同取り組んでいく所存でございます。

さて内容はといいますと、近松門左衛門がある夏の夜のひととき、知人の求めに応じて自作『心中天網島』『国性爺合戦』『五十年忌歌念仏』『権三重帷子』『平家女護島』を語るという設定です。近松の世界にひたっていただけの舞台となるようお稽古に励んでおります。
(三津桜)



●難波土産
(秀子 三信之輔 三千踊 久三之助 州寿 蝶 はつ花)



●豊後道成寺(寿雀)



●山姥(優)



●江戸風流(香代 勇弥 州寿)



●幻腕久
(久三之助 久三菜)



●峠の万才(永紫 蝶)



●四君子
(三津兵衛)



●喜撰(三津映 三太映ほか)

9/17
夜

奏風楽『旅情とところどころ』

『旅情とところどころ』は、昭和三十一年に清元梅吉太夫によって創出された新邦楽である奏風楽の演目です。日本各地の風物、その土地に伝わる故事や季節の祭りなどをさまざまに歌い込んであります。今回は南から北へ向かって日本各地を訪ねていく趣向となつてございます。長引くコロナ禍で、旅することもままなりませんので、この演目をご覧いただきまして、旅の楽しみを味わっていただくとともに、日本の風土の豊かさや人情の深さを改めて感じていただければ幸いです。

本作品は、お流儀の特徴である、「やっつていることがわかる」ように振り付けました。そこに踊り手が思いを込めることで、情景が活き活きと浮かび上がってくることでしょう。

今回は、ベテランから若手まで多彩な顔触れです。それぞれが持てる力を發揮し、観客の皆様的心も躍らせてくれることを期待しております。コロナのために集まることもままなりません、が、皆の思いを一つにして、懸命に稽古いたしております。

(勝友)

9/18
昼



●傾城道成寺 (鈴梢)



●猩々(仙章 藍乃)



●田舎巫女(勝規)



●藤娘 (加浦)



●桜絵巻(和治 光有 勝良 志乃矢 勝梓)



●喜撰(扇菊 扇朱ほか)



●団子売り(京弘女 三奈慧)



●旅情とところどころ(峰寿美 雅 三鏡扇 祐三扇 三貴扇 朋奈 花彦 沙羅)



●旅(千扇)

9/18
夜



●大江戸両国花火
(章太郎 智和 秀恵美 三千優 佳穂乃 真三祥 信兎音)



●保名(一二三)



●禿(寿々風)



●八島(啓)



●旅雀(愛 三代智 三千梅)



●伊勢参宮(以津緒 楓 幸緒里 以和 以緒莉 佳緒乃 以紗緒)



●大坂万歳
(若梢 三裕起)

企画作品の紹介

長唄『大江戸両国花火』

十代目家元の振付で、平成十二年「坂東会創立八十周年記念舞踊会」で初演された作品です。花火のところが三味線の合方、お囃子の手付けが大変おもしろい効果的な曲で、花火をどうやって表現するかを演者の動きを見ながら振り付けられました。十代目により振りが付けられることを作詞の静友己枝先生はとても楽しみにされ、舞台を見て大変お喜びになられたと伺っております。

坂東会二〇〇周年という記念舞踊会にはぜひ十代目の作品を考えたところ、季節的にもぴったりの『大江戸両国花火』が浮かびました。また企画作品として若い方が大勢活躍でき、群舞の勉強にもなる作品だと思えます。

花火は扇子を主役にして位置や角度に気を使い、息を合わせて扇子を揃えて表現します。江戸の夏の賑わいを芝居で表現することも見どころです。

坂東会創立二〇〇周年を記念して舞台いっぱい大輪の花火が打ち上げられることでしょう。

(三信之輔・三裕起・若梢)

坂東流西日本チャリティー 舞踊会を開催しました

第8回



開場を待つお客様

令和3年11月20日(土)先斗町歌舞練場にて、西日本チャリティー舞踊会を開催しました。

来場者220名。新型コロナウイルス感染防止対策で席数制限がある中で、開場前からたくさんのお客様にお並びいただき、開演とともにあたたかい拍手に包まれての一日でした。



感染対策をとしての開催

チャリティー舞踊会を終えて

弥余伎女

何かと落ち着かない日々、お稽古をつけていただくこともままならぬ中、皆さま本当によく精進されていたと感心いたしました。

前日の下ざらいから寿子先生に丁寧に見ていただき、舞台の緊張感が伝わってくるようで、身の引き締まる思いがいたしました。楽屋の動線もよく考えられ、密にならないようにとてもスムーズに流れており、安心して支度ができたと思います。出演者の控室も、普段は舞妓さん芸妓さんたちがお稽古をされている贅沢な広いお部屋を使わせていただけ



『藤娘』

した。窓からは鴨川が見下ろせ、川からの風も心地よくしばし京都を楽しませていただきました。

この度は、『藤娘』を踊らせていただきましたが、何度踊らせていただいても反省する所は多々ございます、逆に回数を重ねるたびに反省点が増えているような気がしております。寿子先生にもコロナ禍でのお稽古、

いろいろとご迷惑をおかけしてしまいました。皆さまの舞台は、熱い思いが伝わってくるような舞台がご覧いただけただのではないかと思っております。先斗町の歌舞練場という場所柄、近くにお住まいでもなかなか入ることがなくて初めて来られた方や、通りがかりの方でも日本舞踊の発表会ということで興味を持っていただけ問い合わせがあったりと嬉しいご報告もありました。

夫婦で舞台上に

伊峰(二代目)

坂東流西日本チャリティー舞踊会にて清元『お祭り』を踊らせていた



『お祭り』

前に違いも多く、大変さも笑いも多いお稽古のなかで、改めてお勉強できたこともたくさんあり、とても貴重な経験をさせていただきました。コロナの流行でお稽古もままならない時期も長くありましたが、規制の多いなかお客様にも入っていたいただき、また、夫婦で舞台上に立たせていただき感謝しております。

できました。私事ではございますが、今年一月に結婚しまして、ダンスインストラクターの夫もからみの若い衆と一緒に出演させていただきます。夫のまったく別ジャンルの踊りから日本舞踊へ変化させていく過程で、当たり



坂東流たすけあいチャリティー 舞踊会を開催しました



令和3年11月28日(日)、会場を浅草公会堂から北とびあさくらホールに移し、第57回坂東流たすけあいチャリティー舞踊会を開催。546名のお客様にご来場いただきました。

昨年は新型コロナウイルスの影響で開催することができず、1年おいての開催となりましたが、会場と楽屋の感染防止対策を徹底し、ご来場いただきましたお客様をはじめ、演者、裏方、皆様のご協力あって無事に開催できましたことをスタッフ一同より感謝いたします。



無事終了し家元とスタッフで手打ち

『雛鶴三番叟』の 舞台を終えて

友女香寿

この度、坂東会が一〇〇周年となる年のチャリティー舞踊会に序幕として坂東流の大切な演目、『雛鶴三番叟』を理事の三名(蝶、京弘女、友女香寿)にて踊らせていただきましたこと、深く感謝しております。

『雛鶴三番叟』とは、現存する長唄の三番叟の中では最古の曲で翁、千歳、三番叟ともに女方で演じます。前半は天下泰平、五穀豊穡を祈る踊り、後半は賑やかな総踊りとなり、優美でおおらかな舞台です。

お稽古は祐天寺のお稽古場にて、ご担当の春敏先生にご指導いただきました。素踊りでそれぞれのお役を演じる



『雛鶴三番叟』の舞台

ことごとございました。女方で三番叟らしく踊ることは私にとって難題でありましたが、丁寧にご指導いただき、女方というものを再確認させていただく機会をいただきました。

坂東流の大切な演目でございます。これからも皆様に演じていただき、つなげてほしいと願っております。

感謝を込めて

千扇



一昨年二〇二〇年の坂東会一〇〇周年とチャリティー舞踊会は新型コロナウイルス感染症の猛威で中止となり、昨年のチャリティーは幸いにも感染者の波が落ち着いた時でしたので開催することができました。会に携われた方々のご苦労に感謝申し上げます。

また、私は五回連続出演とのことで舞台で表彰され、お家元から名前入りの扇を頂戴し、大変うれしく思っております。

二二歳で名取となり、翌年に名披露目、その後すぐに結婚したので、まっ

たく踊りの世界から離れてしまいました。三十年以上たつて師匠である三千丸先生が神田の稽古場から神楽坂に引っ越していらつしやいました。それも私の家から五分の所です。神楽坂のど真ん中に住んでいて、粋で綺麗な芸者衆を見ていると着物を着たいナ、稽古をしたいナ、という思いがどんどん高まっていた時でした。再び三千丸先生の門を叩き、忘れかけていた踊りが目の前に、その時、何か光が差した様なそんな気持ちでした。若い時に体で覚えた感覚が少しずつ蘇り、年を重ねて行くうちに踊る楽しさ、役との向き合い方、時間をかけて作り上げる舞台という大きな目標を持ちながら、今まさに頑張っているところで。そういう思いが私の人生に色彩ある大きな花を咲かせてくれてます。

今、三千丸先生は病いと戦っております。頑張っていたきたいという思いと共に、深い感謝の気持ちで一杯です。そして、亡き三津加先生はじめ諸先生方、坂東会を支えてくださる皆様に感謝申し上げますと共に、これからも若い人たちに日本の良さを再認識してもらい、日舞を含め和の世界がもっと広がってほしいと願っています。

最後に踊りに協力的な主人にも感謝しているところです。

坂東会のできごと

令和3年8月～令和4年3月

感染第5波が落ち着きを見せた令和3年11月、対策を講じた上で「第8回坂東流西日本チャリティー舞踊会」「第57回坂東流たすけあいチャリティー舞踊会」を開催。年が明けオミクロン株の感染拡大により、またも延期や縮小……。

九月三日(金)

●九月四日(土)名取試験、師範試験
家元ワクチン副反応が長引かれ
急遽中止。

九月二八日(火)

●西日本チャリティー舞踊会か
つら合わせ(先斗町歌舞練場)

十月一日(金)

●東京チャリティー舞踊会かつら
合わせ(浅草見番)

〔合同会議〕

出席者／久三之助・友女香寿・蝶・
三千踊・三奈慧・三太映・喜美生・
寿々風・鷹野

●東京チャリティー舞踊会

席数を二つ置きとする他感染対策。

●西日本チャリティー舞踊会

現地及び近隣の支部役員での対
応を基本とする。

●坂東流の衣裳定式資料を作成する

●令和四年度総会

出席者の上限を設ける他感染対策。

●百周年記念舞踊会つば合わせ

令和四年八月二二日(月)・二三日(火)

〔国立劇場大稽古場〕に変更。

●LA支部からの問い合わせ

LAチャリティー舞踊会の映像を
現地の日本舞踊会企画のパーソナル舞
踊会で使用することを理事会で承認。

〔広報委員会〕

●会報一三六号初校

十月二十日(水)

〔広報部委員会〕

●会報一三六号・色校正及びチャリ
ティー舞踊会解説冊子編集会議

十月二八日(木)

〔広報部委員会〕

●会報一三六号発送作業

十一月五日(金)

〔理事会〕

●東京チャリティー舞踊会

当日の協力者、後見見習いに一万
円を支払うこととする。

●令和四年西日本チャリティーゆ
かた会の下合わせ会場。

歌舞練場三階大広間に。

●令和四年東京チャリティー舞踊会

十月三十日(日)浅草公会堂仮予約。

●地方の舞踊会の開催について

支部委員を通して申告を促し、会
報への掲載も勧める。

●十一月五日(月)

●東京チャリティー舞踊会下ざら
い(浅草見番)

十一月十九日(金)

●西日本チャリティー舞踊会下合
わせ(先斗町歌舞練場)

十一月二十日(土)

●第八回坂東流西日本チャリティー
舞踊会(先斗町歌舞練場)

十一月二六日(金)

〔企画部委員会〕

●第二回ビデオ上映会に向けて、道
成寺前半のおさらいをビデオ録画

十一月二八日(日)

●第五七回坂東流チャリティー舞
踊会(北とびあ)

十一月二九日(月)

●道成寺前半おさらいビデオ編集

十二月三日(金)

●西日本チャリティー舞踊会

十二月四日(土)

●第二回 芸の伝承ビデオ上映会
〔京鹿子娘道成寺後半〕(国立劇場伝
統芸能情報館)

十二月五日(日)

●西日本チャリティー舞踊会の反
省会

十二月十日(金)

●合同会議

出席者／久三之助・友女香寿・蝶・京
弘女・勝規・三千踊・三奈慧・三太映・
喜美生・ありか・はつ花・寿々風・鷹野

第49回坂東会定時総会のご報告

3月19日(土)、帝国ホテル「牡丹の間」において
総会を開催しました。当初は出席人数に上限を
設け「富士の間」で開催する予定でしたが、感
染症拡大の状況を鑑み、会長、相談役、理事、委
員のみで行いました。出席者は21名でしたが、
1,802名の委任状をもって全体の75%に達し、
総会は成立。会長が議長に選出されました。

会長からは開口一番「こうして皆さんのお顔
を拝見することができるのが本当にうれしい」
とのご挨拶があり、続いて物故者黙祷、理事
より昨年度の事業報告・今年度の事業計画
の発表、事務局より会計報告などを行い、滞り
なく閉会しました。



十二月三日(金)

〔理事会〕

●西日本チャリティー舞踊会

当日会場募金は四〇、五一・六円。

●次回会場、開催月等改善点を話し
合った。

●東京チャリティー舞踊会

当日会場募金は六六、四〇・五円。

今後、かつら合わせの時に寿子先
生、相談役の先生方に踊りを見てい
ただくことを検討。

●来年から衣裳担当を相談役三名
にお願いする。

●令和四年開催日(十月三十日(日)仮
予約)を十二月三日(土)に変更。

●令和四年度総会について

参加人数を定員制にする。
総会後、支部委員を含め委員会の
開催を検討。

十二月四日(土)

●第二回 芸の伝承ビデオ上映会
〔京鹿子娘道成寺後半〕(国立劇場伝
統芸能情報館)

十二月五日(日)

●西日本チャリティー舞踊会の反
省会

十二月十日(金)

●合同会議

出席者／久三之助・友女香寿・蝶・京
弘女・勝規・三千踊・三奈慧・三太映・
喜美生・ありか・はつ花・寿々風・鷹野

青年部活動報告 (令和3年10月～令和4年3月)

第63回「家元研修会」

日時／令和4年1月16日(日)
 場所／Zoomオンライン開催
 講師／お家元
 内容／見得についての講習～いろいろな見得について勉強する～
 家元より、見得や附け打ちの実演を交えながら、見得の基本から応用までを丁寧に解説していただいた。



第64回「総会」

日時／令和4年3月20日(日)
 場所／Zoomオンライン開催
 内容／グループワーキング発表『ニューノーマル社会における日本舞踊公演の現状』(匝弥、勝兎、祥之助)、来期活動について

「和文化はぐくみプロジェクト」

日時／①令和4年2月2日(水)
 ②令和4年3月8日(火)
 場所／世田谷区立桜木中学校
 講師／富三乃、加代壽、喜美生、幸緒里、智昭、舞花
 内容／着付け体験

●東西チャリティー舞踊会
 収支残高は西日本三〇、四六二円、東京一四五、四三六円。席数を半分にしたため。
 今後も支部委員の協力を仰ぐ。役員一同より出演者に礼状を送付。
 ●東京チャリティー舞踊会
 感染対策の反省点を感染状況に応じて改善していく。
 出演者への預かり物受付の設置を検討。
 今後、出演に際しての手引書作成を検討。
 坂東会としての寄付金額について意見があった。
 ●西日本チャリティー舞踊会
 次回から協力委員に交通費支給を検討。
 ●企画部報告
 動画配信の編集は資料待ち。

●関西支部「ゆかた会」について
 地域性を考慮し袴付きでもよい。役割によりお太鼓でなくてもよい。端唄、小唄で出演可の確認。
 ●会報について
 寄せられた意見について話し合った。
 一月五日(水)
 【理事会】
 企画部制作配信動画サンプルを視聴し修正点を指示。
 チャリティー舞踊会の意図について寿子先生よりご意見を頂いた。総会後の合同会議は中止とする。
 一月十三日(木)
 【広報部委員会】
 ●会報一三七号編集会議
 一月十五日(土)
 ●師範試験科目「北州」藤娘」講習会(祐天寺稽古場)
 一月三十日(日)
 ●名取試験科目「松の緑」講習会中止

一月三十一日(日)
 ●二月三日(木)合同会議を延期とする
 二月八日(火)
 ●三月五日(土)ビデオ上映会「納豆売り」を延期とする
 二月十八日(金)
 【理事会】
 ●総会について
 都内近郊の役員のみでの開催とする。
 参加申込者には懇親会費を全額返金する。
 新名取、新師範をホームページで紹介する。
 ●狂言方について
 渡邊雅氏のご逝去に伴い、後任を篠崎朋也氏に依頼する。
 ●西日本ゆかた会
 後見担当に久三之助。
 三月十一日(金)
 【理事会】

●家元 松尾芸能賞新人賞受賞
 坂東会から三十万円お祝いする。
 ●ビデオ上映会「納豆売り」延期日
 六月四日(土)国立劇場伝統芸能情報館レクチャー室に決定。
 一〇〇周年舞踊会実行委員会より
 受付を役員経験者に依頼する。
 プログラム作成担当は実行委員。
 ●東京チャリティー舞踊会
 企画作品として坂東流ならでの演目を検討。
 三月十三日(日)
 ●動画「三津之丞先生を知る！第一話」天才・三津之丞先生編(前編)配信開始
 三月十九日(土)
 ●第四九回坂東会定時会員総会
 三月二十五日(金)
 ●師範試験(浅草見番)
 三月二十六日(土)
 ●名取試験(浅草見番)

歌舞伎役者として、坂東流の家元として、常に上を目指し五九年という人生を駆け抜けた十代目。爽寿、一万尺という俳号を持ち、句作にも熱心に取り組まれていました。その俳句を紹介しながら、十代目と縁のあった方たちにエッセイをいただきます。第三回目は俳人の西村和子先生です。第一線で活躍されている西村先生は、十代目の俳句をどのようにご覧になっていましたでしょうか。思い出を交え語っていただきました。

残してくれた俳句、言葉を大切に

西村和子

三津五郎さんとの出会いは、私が選者として担当していた番組「NHK俳句」がきっかけです。歌舞伎役者の中では一番俳句がお上手だと思っていましたし、好きな俳句も多かったのですが、ぜひゲストにお呼びしたいと思っていました。でも、お忙しい方でしょう。地味なNHKの番組ですし、ダメを承知で収録日のリストを添えてお願いのご連絡をしたところ、一日だけ空いている日があるということでご出演が叶いました。

沈丁の香に托鉢の笠動き 一万尺

この句は行乞する僧が沈丁花の香りに気づいた情景を詠んだものですが、「笠動き」が族群に効いています。顔をあげる、足を止める、でもなく、笠がちよつと動いたことで香りに気づいたことを表現している。念仏を唱え一心に歩いている托鉢僧が、ふつと甘い花の香に心を動かされた感じがよく表されています。「笠動き」の抑制の効いた言葉の選び方が秀逸です。

歌舞伎や踊りの世界と俳句との共通点を挙げるのであれば、どちらも型の芸術だといえるでしょう。五七五の詩型に必ず季語を入れるといった一見不自由な枠組みの中で、どのように表現の工夫を凝らして豊かな世界を

表出させるか。定型があるからこそ立ち上ってくる俳句という文芸の世界に、三津五郎さんは歌舞伎や踊りと同様の魅力を感じておられたのだと思います。

わざをぎを守りし屋根や暮の春

「わざおぎ」とは俳優、ひいては芸能のことです。「守りし」の「し」は終止形、「屋根や」の「や」は感動や呼びかけを表す切れ字です。で、建替える前の歌舞伎座のことを詠んでいることがわかります。自分たちの芸を守ってくれた歌舞伎座がもうすぐ取り壊される、そして春も暮れていく……その感慨が表現さ

れています。歌舞伎座を「守りし屋根」と表現したところに、技があるなあと思いますね。

三津五郎さんの俳句は、言葉の選び方、切れ字などの使い方が細部まで行き届いていると感じます。踊りを拝見していても、きまつた時の腕の位置に惚れ惚れしたことがありません。もう少し上でも、もう少し下でもない、絶妙の位置でびたりと止まる。修練の積み重ねの中で、ここしかない位置を体を選んでいったのでしょね。俳句も句会を重ねて取り組まれ、言葉のセンスを磨いていかれたのだと思います。

「公演前に取材してほしい」と呼ばれ博多座まで出向いたのは、『芭蕉通夜船』の一人芝居を控えてのことでした。イタンビューは俳句雑誌に掲載され、俳句ファンを動員したことで公演の成功に少なからず貢献したのでしょうか。三津五郎さんから大変感謝されたことを覚えています。また、俳句の弟子たちと観劇の吟行句をお送りすると大変お喜びになり、選句をしてくださった上に「では自分も」と、公演中の思いを詠んだ句を筆でしたためたものをくださいました(下段に掲載)。

墨染の衣を召すや夏の富士

墨染の衣を着ているような霊峰富士。「召す」と敬語を選んで使っている点に注目です。日本人の誰もが持っている富士山に対する信仰にも似た思いが、「召す」を使うことにより伝わってきます。また、せひ声に出して詠んでみてください。これみよがしな表現を使っておらず愛唱性があり、夏の富士というと思い出す句となりそうです。

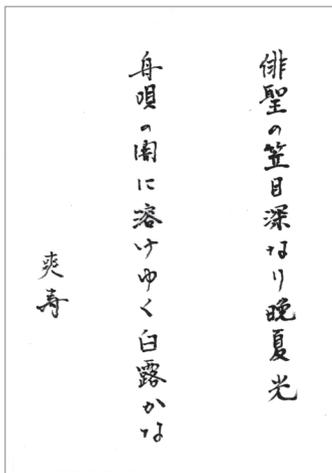
蜜豆や老妓に父のことを聞き

「蜜豆」が夏の季語です。老妓という言葉から、場所は京都の祇園町でしょう。話を聞いたのは、事実はお酒を飲みながら……だったのかもしれないませんが、蜜豆と持つてくるのが心にくい。さらに軟着陸の「聞き」の表現が余韻を感じさせ、さまざまイメージが膨らんでいきます。

亡くなる前年にインタビューする機会を得、大病されてからの舞台は「両親やお師匠さんなど、自分を育ててくれた、もうこの世にはいない人たちに向けてやっている。そういう気持ちが強くなった」と語っておられました。ま

た、死や終わりということを意識するようになって「納得のいくことを人のためではなく、自分のためにやっている」と思った」とも語られています。この二年間の感染症拡大という経験もあり、改めて三津五郎さんの残してくださった言葉を深く受け止めております。

*掲出の俳句は黛まどか宗匠主催の「百夜句会」で宗匠が選ばれた俳句です。百夜句会では一万尺の俳号が使われていたので、紙面でも一万尺と表記しています。



十代目の筆による直筆の俳句

西村和子

俳人。俳誌「知音」代表。昭和四一年(一九六六)「慶大俳句」に入会し、清崎敏郎に師事。平成八年(一九九六)、行方克巳と「知音」創刊。句集に『夏帽子』(俳人協会新人賞)、『心音』(俳人協会賞)、『鎮魂(たましづめ)』、『椅子ひとつ』、著書に『虚子の京都』(俳人協会評論賞)、『添削で俳句入門』、『季語で読む徒然草』など著書多数。

講習会
上映会



試験曲講習会

講習会の目的は名取試験、師範試験に向けたものですが、勉強のための受講希望者も受け付けています。

■松の緑

師範会員の対象です。お弟子さんに名取試験をお考えの師範会員のほうが参加をお勧めします。

日時／7月30日午後1時より

場所／祐天寺稽古場(自黒区祐天寺2-15-12)

受講料／5000円

講師／以津緒 真三様、扇輔

■北州・藤娘

師範会員の対象、ただし師匠と一緒に受講するのであれば名取の方も受講できます。

日時／7月31日午後1時より(北州・藤娘・同日)

場所／祐天寺稽古場(自黒区祐天寺2-15-12)

受講料／北州10000円、藤娘5000円(名取受講料各5000円)

講師／三津枝、智和、映司

芸の伝承ビデオ上映会のお知らせ

第3回は清元『納豆売り』を題材に寿子先生、勝友先生、温子先生にお話しいただきます。

日時／6月4日(土)午後2時より

会場／国立劇場伝統芸能情報館レクチャー室

参加費／3000円

申込／ファックス、メール、または葉書で「参加者全員の芸名・氏名を記入の上、坂東会事務所までお申し込みください。

(3月5日開催予定を、新型コロナウイルス感染症の拡大状況から安全を考慮し延期された上映会です)

試験



秋の名取・師範試験

詳しくは事務所までお問い合わせください。

師範試験／9月3日(出)

名取試験／9月4日(回)

会場／浅草見番

申し込み締切日／7月末日

※詳細は締め切り後、お知らせいたします。

舞踊会



舞踊会の情報です。お切符など詳細は会主、または坂東会事務所までお問い合わせください。

■まゆの会

日時／令和4年7月18日(月)・(祝)

会主／坂東以津緒

会場／国立劇場小劇場

入場料／3000円

■ふきの会

日時／令和5年2月25日(出)

東西チャリティーゆかた会

京都と東京でチャリティーゆかた会を開催します。東京は昨年が延期となつての今年の開催です。みなさんどうぞお出かけください。なお、観覧ご希望の方は、坂東会事務所までお申し込みください。

第2回坂東流西日本チャリティーゆかた会

日時／令和4年6月18日(土)午後1時開演

会場／京都先斗町歌舞練場

演目／舞・絵日傘・花くらべ・ほたる狩り・近江のお兼・浦島・都鳥・夕暮れ／からかさ・浮かれ坊主・春夏秋冬・都風流・鶴亀・松島 他

入場料／1000円

第3回坂東流東京チャリティーゆかた会

日時／令和4年7月3日(日)午後1時開演

会場／日本橋公会堂(中央区日本橋 牡蠣殻町)

演目／桜禿・恋ほたる・娘みこし・松の緑・笠森お仙・二日月夜・七福神・雨の五郎・春夏秋冬・新曲浦島・浮かれひょうたん・端午・扇の的・朝顔売り・七福神・川開き・玉屋・紅売り・多摩川・旅 他

入場料／1000円

出演も受け付け中

○チャリティーゆかた会は、名取だけでなく、一般のお弟子さんも出演することができます。これを機会に芸の精進につなげませんか。出演費は38000円(西日本チャリティーは40000円)、入場券(10000円)が10枚含まれています。

※番数が揃い次第締め切りとさせていただきます。

第58回坂東流たすけあいチャリティー舞踊会を開催します

日時／12月3日(土)
会場／浅草公会堂
11月号にて演目を掲載します。



会主／坂東富起子
 監修／坂東梢
 会場／国立劇場小劇場
 入場料／未定

■ 扇の会勉強会
 日時／令和5年4月8日(出)
 会主／坂東勝友・坂東朋奈
 会場／日本橋公会堂
 入場料／未定

その他



富士・さくらの修了証の発行

流儀の曲である長唄『富士』、清元『七くし』を習得した方には、修了証を発行します。お申込みの締切日は次の通りです。
 締切日／2月10日、6月10日、10月10日

坂東流ホームページにて動画配信 三津之丞お師匠さんの思い出を語る！

舞踊家、そして振付師として活躍なさった三津之丞お師匠さんのお人柄やエピソード、振り付けされた作品をご紹介します。ぜひご覧ください。

※会員ページパスワード：bando100

新名取紹介及び師範合格者紹介

ホームページにて平成31年春から令和3年春までの新名取紹介及び師範合格者のご紹介をしています。

会員専用ページ情報満載！

坂東流ホームページをご活用ください。行事や会員の活動を順次アップしていきます。

■ お稽古場紹介

掲載料／6000円(1年間)

掲載期間／年度末(3月末)まで

■ お稽古場訪問

掲載料／5400円(1回)

掲載期間／約1カ月

チャリティー舞踊坂東会 100万円寄付 光と愛の事業団に(読売新聞より)

日本舞踊坂東流の「第8回西日本チャリティー舞踊会」が20日京都市の先斗町歌舞練場であり、主催した「坂東会」坂東巳之助会長が読売光と愛の事業団に100万円を寄付した。同会の坂東寿子副会長が「困っておられる方のお役に立てれば」と事業団に目録を手渡した。西日本チャリティー舞踊会は1995年の阪神大震災を機に「舞台を通して社会福祉事業に貢献を」と始まり、事業団への寄付はこれで計600万円になった。



贈呈式

*坂東流たすけあいチャリティー舞踊会でも光と愛の事業団に100万円を寄付しております。

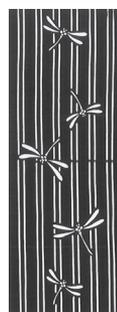
夏を彩るお揃いゆかた

今年も3つの柄が揃いました。
お揃いの浴衣を着てお稽古に励みましょう。

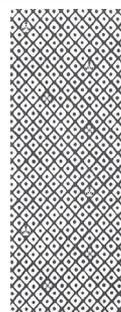


3号柄
(白地に緑)
21,200円

洗える夏着物
あやめかつみ文様(ポリエステル100%・セオ)



2号柄
(黒地に白)
20,400円



1号柄
(白地に紫)
16,400円

ゆかた

「坂東会創立百周年記念舞踊会企画」
江戸下町のかつみ文様(綿100%)

ホームページにてモデル着用写真を掲載予定です。今回は噺家で坂東流名取である林家正蔵師匠(坂東蝶蔵)と林家つる子さん(坂東蝶子)にモデルとなっていました。

申込方法など詳細は坂東会事務所までお問い合わせください。

青年部部員募集

青年部では随時部員を募集しています。毎年2~3回程度の講習会や勉強会を企画しており、若手の名取・師範名取が技芸を磨き、交流を深める活動を行っております。部員資格は満49歳までの名取で、親師匠の許可があればどなたでも入会できます。

ご入会希望の方は、青年部アドレス(seinenbu.rennraku@gmail.com)までお問合せください。年会費3000円。



オンラインによる第19回総会

新名取のご紹介

令和四年三月までの名取試験合格者です。

会員番号	芸名	本名	取立師匠
M-136	京三鈴	Takehita Jaymie	拡七郎
M-137	京三佐武士	Garland Naomi Yuki	拡七郎
M-138	明起光	周防屋明子	真起文
M-139	真紅生	川口美紅	真起文
M-140	三沙桃	坪井響子	三沙平
M-141	錦照	石井富美子	錦寿
M-142	草奈実	菅谷雅子	草雲雀
M-143	草洲佳	望月佳代子	草雲雀
M-144	由寿葵	福田葵	三導由
M-145	華光	塩田華子	寿彦
M-146	若丸	三橋初枝	若梢
M-147	梅白衣	兼子幾子	三千梅
M-148	香寿文	伊藤百合香	友女香寿
M-149	香寿白	豊嶋由美子	友女香寿
M-150	香寿浜	日名子まぎ	友女香寿
M-151	香寿鶴	中澤真望	友女香寿
M-153	怜裕	長島可伶	三裕起
M-154	櫻深	倉科力ナ	三津桜

●平成31年(2019)3月〜令和2年(2020)10月の新名取・新師範の方をホームページ上で紹介しています。

お悔やみ申し上げます

令和元年四月十八日	坂東三登幸
令和二年九月三十日	坂東奈美親
令和三年	坂東妙静
令和三年一月十七日	坂東志名上
令和三年三月二十八日	坂東勝文乃
令和三年十一月二日	坂東三知弥榮
令和三年十一月三日	坂東岑蔵
令和三年十一月六日	坂東二三湧
令和三年十二月二日	坂東大輝
令和四年二月四日	坂東三津鈴
令和四年二月四日	坂東三寿春
令和四年三月十日	坂東三勢寿



えすずから三津鈴に。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

坂東会最高齢でいらした坂東三津鈴さん(207歳)が逝去されました。三津鈴さんは昭和八年に名取、昭和四五年より直門となり初代三枝鈴(み

師範名取のご紹介

令和四年三月までの師範試験合格者です。

会員番号・芸名	会員番号・芸名	会員番号・芸名
9-895 和治	10-815 以乃輔	M-58 香寿重

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

長年にわたり坂東会舞踊会を支えてくださいました、狂言方・渡邊雅さんが二月二十八日に逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



渡邊雅わたなべただし
昭和二九年 東京浅草生まれ。
昭和三九年 11才で祖父・益次郎次男の正二(父)、三男(叔父)に大道具方、狂言方、附打を師事。
平成十六年 国立劇場自主公演「日本舞踊の狂言方として携わる」。
平成二〇年 父・正二没後、大道具渡辺舞台の三代目となる。

急報

坂東会相談役として、長年、坂東流・坂東会を支えてこられた坂東梢先生が、4月15日にご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

この会報の入稿直前に飛び込んできた突然の訃報に、一同驚いております。次号では先生を偲び、先生の足跡などを振り返りたいと思います。合掌

坂東会 第一三七号

令和四年五月一日発行

編集発行人 坂東会広報部

発行所 坂東会事務所

〒101-0100 四七

東京都千代田区内神田一丁目十八ー十一 東京ロイヤルプラザ三〇一号

☎03(3351)8211

FAX 03(3351)8210

E-mail: bandokai@crux.ocn.ne.jp